

白藍塾オリジナル

2015入試小論文分析&解答のヒント

2015年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・文学部

課題文は、科学においてしばしば使われる比喩的表現が、理解を容易にする反面、誤解や曲解を招く恐れがあることを指摘している。「ビッグバン」や「ブラックホール」といった科学の用語は、イメージしやすいので一般の人々にも伝わりやすいが、そのためにかえって事柄の正確な理解を妨げてしまう、というわけだ。筆者は、そうした傾向を批判して、科学用語の使い方にはもっと慎重になるべきだ、と主張している。

設問Ⅰは、「科学的知識についての筆者の主張」をまとめる問題。筆者自身は「科学的知識」という言葉を使っていないので、設問の意図がややわかりにくい。要は課題文の要約が求められていると考えればよい。「科学の概念は、その比喩的な性格ゆえにしばしば科学的知識の正確な理解を妨げるので、恣意的に用いるべきではない」という筆者の主張を、字数に合わせて説明すればそれでよい。

設問Ⅱでは、「人間にとって科学的な知識とはどんなものか」が問われている。これも、必ずしもわかりやすい設問ではないが、課題文の主張の是非が問われていると考えれば、対応はしやすい。課題文の筆者は、「科学的知識とは、正確な用語法で厳密に理解されるべきものだ」と考えているので、その考えの是非を問題提起すればよいだろう。

課題文に賛成の場合は、課題文の内容を補うつもりで書けばよい。課題文にない例を自分なりに考えて、科学的知識が曲解されると社会にどんな危険をもたらすか、といったことを具体的に示すことができれば、十分合格レベルになるだろう。

課題文に反対の場合は、「科学的知識は、社会にとって役に立つものであるべきだ。そのためは、厳密さよりもわかりやすさを重視して、一般の人々にも理解しやすいようにするべきだ」「科学的知識は、新たな発見によって次々に書きされていくもの。あまりに厳密な定義は、研究者の考え方を硬直させ、そうした発見をさせにくくする危険がある」などと論じることができる。

「科学的知識」のあり方が問われているので、文学部の出題としてはやや異例に思えるかもしれない。だが、課題文をよく読めば、言葉の持つ比喩的性質の危険性を論じているという点で、むしろ文学部的な内容と言えよう。その点に気づけば、それほど難しい問題ではないはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>